

セクレタリー・ジェネラルの報告

概要

1. この報告は、ACC のメンバーにアングリカン・コミュニオン事務局（ACO）の内部活動に関する重要事項とコミュニオン自体に関するより広範な事項を知らせることを目的としたものである。これは、2022 年 9 月 1 日にセクレタリー・ジェネラルに就任して以来の私の活動、2023 年に向けた私の優先事項、そしてアングリカン・コミュニオンについて私が心に抱いている事柄を扱う。

引継ぎ

2. 私が就任する前、ジョサイア大主教と一緒に過ごすことができたことに私は感謝している。彼の長年のアングリカン・コミュニオンのセクレタリー・ジェネラルとしてのその知識と知恵から私は多くのことを学んだ。
3. ACC 会長のポール・クウォン大主教と副議長のマギー・スウィンソン氏には、私がセクレタリー・ジェネラルとしての役割を果たせるようになるまで支援いただいたことに感謝している。ACO のマネジメントチームのメンバーや他の同僚には、ここ数ヶ月多大な助力をいただいた。私は彼らの協力とチームワークにとっても感謝している。
4. 私の最初の数ヶ月間、私の最優先事項の一つは、アングリカン・コミュニオン事務局のスタッフと面識を深めることであった。彼らの知識、プロフェッショナリズム、そして勤勉さは、なすことすべてを達成し続けている主な理由である。私は特に、Lambeth Conference Company の CEO やアングリカン連合のエグゼクティブ・ディレクターと並んで、私に対し直接責任を負うディレクターとのミーティングを重視した。その目的は、彼らの役割、彼らが負う責任、彼らが直面する主な課題、存在する機会、次のシーズンに

向けた優先事項、そして何が達成されるかについての彼らの長期的なビジョンをよりよく理解することであった。私は多くのことを学び、彼らの仕事で彼らを引き続きサポートできることを楽しみにしている。また、私は人事管理から組織の財務業務まで、重要な国際関係やプロセスについてさらに理解することにも時間を費やした。

ACO のスタッフの最新情報

- 2023 年には、我々のリーダーシップチームで何人かの新たなディレクターが着任する。一致・信仰・職制の新たなディレクターであるクリストファー・ウェルズ博士が任命され、2022 年 11 月 1 日に着任した。グレース・バーロウ女史が管理・ロジスティックスのディレクターに任命され、2022 年 10 月に着任した。新しい国連常任代表が任命され、2023 年 3 月 13 日に着任する。 アングリカン・コミュニオン事務局がコミュニオンのために業務を行う上で、彼らが果たす重要な役割に私は期待している。
5. セクレタリー・ジェネラルのオフィス内では、次の 3 人も新たに任命された：セクレタリー・ジェネラル付プライベート・セクレタリーの キャロライン・トンプソン女史、イベント・トラベル・オフィサーのタイラー・ジョーダン氏、そしてガバナンス・オフィサーのダニエラ・ドンコー女史である。ジョー・ベイリー・ウェルズ主教はアングリカン・コミュニオンのエписコパル・ミニストリーの主教に任命され、カリ・ルレイロ女史はエписコパル・ミニストリー・サポート・オフィサーに任命された。ジャネット・マイルズ女史は、Lambeth Conference のフェーズ 3 のコミュニケーション活動の支援業務を行うことになる。Revd Canon Dr スティーブン・スペンサー牧師も、Lambeth Conference の実施フェーズをサポートすることになる。2023 年 1 月に全員が職務に就いた。シニア・コミュニケーション・マネージャーも任命されており、関連する雇用前チェックを経て 2023 年 3 月 1 日に業務を開始することになる。我々は、ACO の一員となった献身的で才能のあるプロフェッショナルとして、これら新人たちと一緒に働くことを楽しみにしている。
7. 小さな組織として、スタッフの定着が難しいことを私は感じている。そのため我々は、スタッフを育成し、その高まった経験をその役割と給与に反映させることについて、より意識的になる方法を検討してきた。生活給与を上げることの年間コストについては、IAFAC で 2 月に協議され、常任委員会に承認を求める勧告が出される予定である。これには、現在の英国のインフレ率、英国での給与増加、および ACC と似た組織の特定のベンチマークが考慮される。個々の職務内容とそれに対応する給与の見直しも始まっており、常任委員

会に提出する変更勧告とともに、2023 年まで続けられる。スタッフの能力開発とトレーニングは、今年の個人開発レビューに組み込まれており、これによりスタッフの専門的な成長をサポートできる方法を見定める。また、引き続き働き方の文化や慣行を見直し、スタッフが喜んで働けると同時にワークライフバランスを維持できる環境を提供する。新型コロナウイルスの世界的大流行以降、これにはオフィスと自宅のハイブリッドワーキングモデルも含むものである。

戦略計画と ACC 決議

8. アングリカン・コミュニオン事務局戦略計画は、私にとって戦略的方向性と優先事項を理解するのに非常に役に立った。私は今、新しい視点からいくつかの重要なことを考えており、それとは別により大きなニュアンスの度合いを持って考えていることもある。私は、今後この戦略計画をどのように進めていくのかを熟考してきた。これは、私が他の人から助言を求めていることもあり、今後も内外を問わず、同僚との多くの議論を伴うものとなるであろう。そして、神が私の心に与えられた呼びかけを個人として私は熟考していることもあり、このことは多くの祈りを伴うことになるであろう。
9. Lambeth Conference の成果も、戦略計画の策定と展開に反映される。今後数ヶ月、数年にわたって、常任委員会の指導と支援を受けながら、前進していくことを私は楽しみにしている。我々は、ACC-17 の決議を引き続き実行し、常任委員会の進捗を維持する。その一例が、ACC のジェンダー公正に関する決議の実施に関するベースライン調査であり、アングリカン・コミュニオン全体でジェンダー公正を達成するためには、いくつかの重要な障壁が存在し、まだ行われなければならない作業があることが明らかになった。

セントアンドルーズ・ハウス

10. セントアンドルーズ・コミュニティからのセントアンドルーズ・ハウスの名目家賃のみによる賃貸は、2032 年までさらに 10 年間更新された。我々は引き続き建物の維持管理に責任を負う。建物の使用とゲストハウスのレビューが常任委員会から依頼された。2022 年 2 月に中間調査結果が報告されたが、私は現在同僚と協力してこのレビューを完了させ、常任委員会で検討されるよう推奨事項をいくつか作成する予定である。特に、活動の増加や、常設委員会やコンパスローズ・ソサエティなどの大規模な会合がセントアンドルーズ・ハウスに戻ってくる中、所長一人で対応することが難しくなっていることを私は認識しており、今後の最善の方策について我々は議論を始めている。

大主教らへの訪問

11. 幸運なことに、私はジャスティン・ウェルビー大主教のアングリカン・コミュニオンの問題に関するアドバイザーとして働いていたことがあり、この役割を通じて多くの大主教と面識を持つことができた。私の役割が変わったことで大主教らとの関係も変わった。ここ数ヶ月間私は、大主教らとの一対一のミーティングを行い、彼らの管区をよりよく理解するよう努めている。彼らが直面している課題を知り、彼らがアングリカン・チャーチの将来に抱いている希望を知ることは、これまでの認識を変えることができ、助けになっている。私はまた、今後数ヶ月、数年にわたって彼らの管区の生活の中でどのような重要な出来事が起こるだろうか、そして私のサポートや私の物理的存在がそのことに何か役立つだろうかということを確認しようとしてきた。この情報は、今後数か月、数年にわたって私の仕事と旅行の優先順位を決めるのに役立つものとなる。

管区の分担金

12. 私は大主教らへの訪問の際に、インター・アングリカン予算に対する管区の分担金の問題を取り上げてきた。一部の方は、新型コロナウイルスの世界的大流行の際の管区の財政負担を考え、分担金を出す能力について懸念を表明している。これに鑑みて、その懸念を反映させて、各管区からの分担金の配分を見直す必要があるかもしれない。私たちは、アングリカン・コミュニオンの中で必要とされるいくつかのニーズを満たすために、しっかりとした財政状態を保つことが重要である。

Lambeth Conference

13. 「神の世界のための神の教会」というテーマを探求し、ペトロの手紙一に触発された第 15 回 Lambeth Conference は、福音の希望を持って外に向かい、世界のニーズを見ることを我々に迫るものであった。635 人の主教と 464 人の配偶者におかれては 2022 年、英国まで旅をされ、この重要な集会に参加いただいたことを嬉しく思う。2 年間のロックダウンと新型コロナウイルスによる制限の後ということもあり、直接会う機会は非常に特別であった。これは、祈り、交わり、そして会話のための場を提供することになった。多くの主教たちは会議の喜びを私と共にし、活気を取り戻したアングリカン・コミュニオンのことを話した。

14. Lambeth Conference は、次の 3 つのフェーズで実施されるように計画された：フェーズ 1：「共に聞く」（2021/2022）オンラインでの集まりと対話、フェーズ 2：「共に歩く」（2022 年 7 月～8 月）カンタベリーでのイベント、およびフェーズ 3：「共に証しとなる」（2023～2026）会議の成果を引き継ぎ、ランベスの呼びかけに上に構築する。会議でのランベスの呼びかけのセッションからのフィードバックは、フェーズ 3 グループに送られているところである。これらはアングリカン・コミュニオンへの贈り物として共有され、管区や主教区にそれらについて検討するようお願いする予定である。
15. Lambeth Conference については、2 つの報告書が提出されることになっている。まず、Lambeth Conference リソースガイドで、これは、イベントの重要な瞬間を記録し、会議でのセッションの関連資料やビデオにリンクするものである。第二に、公式会議報告書で、ACO のスティーブン・スペンサーにより編集が進められている。これは、フェーズ 1 と 2 をカバーするもので、主教対話や会議自体からの報告と講演を含むものである。
16. ジュリオ・マレー主教が Lambeth Conference のフェーズ 3 に取り組むグループの議長を務め、特に ACO の活動の重要な分野に関連する「呼びかけ」に取り組んでいる。ジョー・ベイリー・ウェルズ主教もまた、アングリカン・コミュニオン事務局のエピスコパル・ミニストリーの主教としての彼女の役割の一部として、この作業に加わることになる。その目的は、私たちが「神の世界のための神の教会」になることを目指す中、アングリカン・コミュニオンの生活を豊かにすることである。フェーズ 3 の報告書は、アングリカン諮問評議会に知らせるために作成されており、ACC 会議開催の際に発表される予定である。
17. 多くの主教が、会議の聖書研究グループを高く評価した。主教らはまた、ランベスの呼びかけセッションに向けてこれら同じグループで会合した。それらは、関係を築く場となし、時には安全な場でいくつか難しい会話ともなった。会議の後、多くのグループがオンラインで会合を継続している。フェーズ 3 の作業は、これらのグループを励ますこととリソースを提供することが中心となる。これをサポートするために、ファシリテーターのチームが立ち上げられている。

Primates' Meetings

18. Primates' Meeting は、世界でさまざまな間隔で開催されている。直近の対面会議は、2022 年 3 月にロンドンの Lambeth Palace で行われたハイブリッド会議であった。

2022 年 12 月にバーチャルで Primates' Meeting が開催された。次回の対面 Primates' Meeting は 2024 年春にローマで開催される予定である。

アングリカン・コミュニオンの管区

19. 新しいモザンビーク・アンゴラ・アングリカン・チャーチ (IAMA) が、アングリカン・コミュニオンの 42 番目の管区として発足した。これは、ACC の法律顧問が南アフリカ・アングリカン・チャーチおよび提案管区の上位指導者と連絡を取り合って行った規約レビューと観察を経たものである。発足式は 2021 年 9 月 24 日に開催され、南アフリカ・アングリカン・チャーチの創設 150 周年を記念するものであった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、式典はバーチャルで行われた。私は光栄にも、2022 年 11 月にモザンビークで開催された管区記念式典にカンタベリー大主教と同行し、出席しました。私たちは北部のカポデルガード地域を訪れ、モザンビークのアングリカン・チャーチが平和構築のためにエキュメニカル・異教徒・国連のパートナーと協力する様子を見学した。
20. セイロン教会を新しい管区として設立するプロセスは、常任委員会の要請により第 3 の主教区の創設が保留されている。Lambeth Palace と ACO は、この件についてセイロン教会と連絡を取り合っており、このプロセスに引き続き協力・支援していく。

アングリカン・コミュニオンの委員会とネットワーク

21. ACC-17 以降、3 つの新たな委員会が設立された。まず、科学委員会で、ジョン・テンブルトン財団から多額の資金援助を受けており、特にケニアにあるそのハブを通じ、今後大きな影響を与えることになるであろう。第二に、伝導・弟子育成委員会で、コミュニオン全体でのチャーチ・プランティングにおける重要な活動と、ジーザス・シェイプド・ライフ (イエスが形作った生活) プログラムを通じて意図的弟子育成を支援・拡張している。最後に、アングリカン・コミュニオン神学教育委員会 (CTEAC) で、過去 5 年間で始められたネットワークとリソース提供を継続することになる。これらの委員会の発足は、2020/2021 年の ACO レビューと再編の目的が達成されつつあることを示している。というのは、ACO 内で以前に行われていた布教活動が現在これらの委員会により所有・展開されており、その理事はアングリカン・コミュニオンの加盟教会により任命されているからである。

22. 新たに設立されたインター・アングリカン一致・信仰・職制常任委員会（IASCUFO）が 2022 年 12 月にナイロビで会合を開いたとき、それに短い時間ではあったが参加できたことは大きな名誉であった。私は彼らと、彼らの仕事に対する私のビジョンを共有し、前回 Lambeth Conference から出てきた、進める必要があるいくつかのことについて大要を述べた。
23. 委員会とネットワークは、バーチャルで関わる機会を最大限活かすことで、新型コロナウイルスの世界的大流行の中でも引き続き盛んである。新型コロナウイルスや生態系危機、ジェンダー公正などをテーマとしたウェビナーやニュースレター、リソースの形で、ネットワーク間で有益な協働が行われている。また、この 3 年間の状況は、重要な布教分野において新たなエネルギーをもたらしており、新しいアングリカン・ヘルス・コミュニティネットワークやアングリカン・コミュニオン・ユース・ネットワークなどのネットワークを活発化させている。Lambeth Conference では、セーフ・チャーチ委員会の活動に注目が集まり、人々を危害から保護するために、すべての管区が適切な方針、手順およびプロセスを確保する必要性が強調された。言語の多様性を助け、委員会とネットワークがコミュニオンのすべての部分に届くようにするためには、さらに多くの作業が必要である。コミュニオンは、何百人ものメンバーがその時間、信仰、資金、ストーリーおよび祈りを捧げ、委員会とネットワークへの関わり、情熱そして献身を通して深く豊かになり、布教に参加できるようになっている。それは、「教会は布教によって存在している。火が燃えることによって存在するのと同じように。」（エミール・ブルナー）にも表されている。私は、会議の文書にあるすべての委員会とネットワークの力強い報告を賞賛する。
24. Lambeth Conference の旅を通じて主教の配偶者で行われた活動を強化するために、ACC 常任委員会は、主教の配偶者のためのネットワークの設置を承認した。運営グループが地域からの代表者により確定するまで、ネットワークの設置を監督するための暫定グループが立ち上げられつつある。主教の配偶者のためのネットワークは、配偶者間の交わり、励まし、そして学びの促進がその目的となる。

アングリカン連合

25. アングリカン連合は、コミュニオンの世界的な新型コロナウイルスへの対応を支援した。例えば、新たな問題と効果的な対応のための教会モデルを見定めるためのグローバルタスクフォースと地域ワーキンググループの立ち上げや、35 回を超える地域およびグローバルウェビナーを通じてこの学びを共有した。彼らはまた、保健リソースや聖書研究（4 言語）

によるオンラインリソースハブを開発し、世界保健機関と連携し、教会指導者へのブリーフィングを行った。最後に、彼らはポリシーを策定し、各国政府や G7 に対しワクチンの公平性に関するコミュニオンのアドボカシーを推進した。

26. エコシステム保護と森林再生のためのコミュニオン全体の運動であるコミュニオン・フォレストは、2022 年 Lambeth Conference で始められた。このコンセプトは、エコ主教、アングリカン・コミュニオン環境ネットワークおよびアングリカン連合のワーキンググループによって生み出された。連合はこの取り組みを Lambeth Conference の遺産として広めることに合意した。

今後の訪問

27. 2 月上旬、私はカンタベリー大主教による南スーダンへの「エキュメニカル平和の巡礼」に同行する予定である。これは、フランシスコ教皇とスコットランド教会の総会議長との共同訪問である。

28. 私は現在、2023 年と 2024 年の公式訪問を計画しており、管区とコミュニオンをできる限り支援していきたいと考えている。確定済みの訪問の一つは、コンパスローズ・ソサエティのメンバーとともに、コミュニオンを巡る年次訪問の一環として彼らが行う 2023 年 8 月のタンザニア訪問である。

財務

29. 私は、これまで一貫してアングリカンの予算に拠出金を出していただいていた全ての管区に今一度感謝の意を表したい。コンパスローズ・ソサエティには、ACO に対し心からのご支援を賜り、また他のパートナーには私たちを支援いただいていることに対し感謝申し上げます。

まとめ

30. セクレタリー・ジェネラルとして私の役割は、関係を構築することと、2022 年 Lambeth Conference の成果をフェーズ 3 グループの作業の一部として前に進めることに今後注力することである。私たちは、コミュニオンの会議やイベントを促進するアングリカン・コミュニオンのインストルメンツの事務局として今後も引き続き任務を果たしていくもので

ある。私たちが行うことはすべて、常任委員会の指導の下、インター・アングリカン財務・管理委員会（IAFAC）の財政監督を受けて行われるものであり、アングリカン・コミュニオンの生活と活動を通して神の世界における神の使命を広げる助けとなるものである。

The Right Reverend アンソニー・ポッゴ

2023年1月